

令和5年度 (2023年度)	観光にぎわい部の取り組み
＜部長の方針・考え方＞ 2025年大阪・関西万博に向け、歴史・文化・芸術・スポーツ・食といった本市の地域資源を活用した施策をひらかた万博の一環として戦略的に展開し、にぎわいの創出及び地域経済活性化につなげます。	
＜部の構成＞ 観光交流課 商工振興課 農業振興課 文化生涯学習課 文化財課 スポーツ振興課	＜主な担当事務＞ (1)観光及び都市交流に関すること。 (2)商工業に関すること。 (3)農業及び里山に関すること。 (4)文化および生涯学習に関すること。 (5)文化財に関すること。 (6)スポーツに関すること。

重点的な取り組み：戦略的な観光施策の展開



◆市駅周辺で生まれつつある「活性化要素」を活かす

毎月第2日曜に開かれる「枚方宿くらわんか五六市」は約8,000人が訪れるまちなか市として人気が定着しています。そうした中、枚方から八軒家浜の間では淀川舟運の定期運航が行われており、さらに国においては、万博会場となる夢洲が位置する大阪湾と淀川上流の航行を可能とするため、淀川大堰に新たな閘門を整備する工事が進行しています。また、令和3年にオープンした総合文化芸術センターでは音楽や演劇、アートで多くの人々が訪れており、令和6年には枚方市駅前に新たなホテルも完成予定です。令和7年に開催される大阪・関西万博に向けて、これらの地域資源を生かしながら、枚方宿界隈や淀川河川敷、枚方市駅周辺のにぎわいを創出し、地域経済の活性化に繋がるよう、持続性のある観光施策に取り組みます。

◆枚方宿を起点に「楽しい」「おいしい」が待っている「淀川の中継港」へ

上記のことを踏まえ、現在の枚方市を形作った歴史を持つ「枚方宿地区」を起点とし、枚方市駅～淀川河川エリア、枚方公園駅までの地域を「面」で捉えることでにぎわいが生まれるよう、観光を「デザインする」視点で取り組みます。令和4年度に策定した枚方市観光ロードマップで掲げた「楽しい」「おいしい」が待っている現代版「淀川の中継港」を目指し、民間事業者や国、府、淀川沿川自治体との連携も深めながら、枚方観光の顔となる淀川舟運のコンテンツ充実や淀川河川エリアを活用したアウトドア・アクティビティのさらなる活性化に取り組みます。また、生み出されたにぎわいが市域全体へ波及するよう、市の花「菊」や「七夕」など枚方ならではのキーワードを生かしながら、市内店舗を含む地域資源を磨き上げ、枚方をまるごと楽しむ観光を「くらわんかツーリズム」として発信していきます。

◆にぎわい創出の拠点整備と観光施策の担い手

枚方宿の中心にあり淀川河川敷にも近い幼児療育園跡地の活用については、にぎわい創出の新たな拠点となるよう、民設民営での整備に向けて取り組めます。また、観光施策の推進にあたっては、観光の礎となる歴史・文化といった地域資源の保存や伝承・活用を担う枚方文化観光協会や、地域の「稼ぐ力」を引き出し、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の担い手として、令和5年3月に観光庁の認定を受けた候補DMO「一般社団法人くらわんか観光マネジメント」など、本市の観光施策を担う多様な関係団体がそれぞれの強みを生かし、枚方のポテンシャルを最大限に発揮できるよう連携して取り組んでいきます。

実 績	①・「淀川河川敷枚方エリアかわまちづくり計画」の国への申請及び登録。 ・実証実験「リバーテラスくらわんか」の開催。 <開催月：10月、11月、令和6年1月 参加人数：延べ998人> ・実証実験「船上レストラン」の開催。<開催月：11月 参加人数：80人> ・民間事業者主催による「よどがわアクティビティくらわんか」の継続実施。 <開催月：10月、11月（5、6、3月は中止） 参加人数：延べ374人> ・Eポート川下り&とっておき体験の開催。 <開催月：10月(枚方コース)参加人数：25人> ② 幼児療育園跡地の活用に向けたプロポーザル方式による事業者の公募条件の検討及び解体設計業務委託の実施。 ③ 枚方市観光案内所 Syuku56（シュクゴジウロク）の令和6年度オープンに向けた実施設計及び工事等の実施。 ④ 観光施策の推進について、特定非営利活動法人枚方文化観光協会及び一般社団法人くらわんか観光マネジメント（以下「地域候補DMO」という）との効果的な連携体制の構築及び大阪観光局のDMP（データ・マネジメント・プラットフォーム）を活用した調査分析及び「枚方宿」をテーマにした動画を活用した観光プロモーション委託の実施。
説 明	① 河川空間を活用した地域の賑わい創出を目指す取り組みとして、「淀川河川敷枚方エリアかわまちづくり計画」を国に申請し、8月に登録されました。同計画の実証実験として、10月、11月に河川公園の大型イベントと同日開催する形で自然風景を眺められる「くつろぎ空間」やキッチンカーなどを配置したほか、近畿運輸局・民間事業者と連携し、枚方船着場に3日間、船舶を停泊し飲食の提供や音楽ライブを行う「船上レストラン」を実施しました。令和6年1月は淀川河川事務所との共催で、冬季の堤防上における事業の可能性やニーズを確認するため、2日間限定のキャンプサイトを設置しテントによる宿泊やテントサウナ体験を行いました。 その他、令和4年度に引き続き、地元アウトドア事業者等による、水辺アクティビティを楽しめる「よどがわアクティビティくらわんか」、淀川上流沿川自治体である宇治市・京都市（伏見区）、八幡市と連携し、11人乗りのE

	ボートによる川下りと街中での観光体験メニューを組み合わせたイベントを実施しました。 令和6年度については、淀川河川エリアを活用したアウトドア・アクティビティや淀川舟運のさらなる拡充・活性化に取り組みます。 ② 枚方宿地区の中間に位置し、淀川への結節点に位置する幼児療育園跡地については、新たに枚方宿地域の賑わい創出拠点施設を整備することを目指し、民設民営手法による実施に向け、サウンディング調査を実施しました。 ③ 市駅高架下1階に設置する市駅周辺再整備に伴う枚方市観光案内所 Syuku56 (シュクゴジュウロク) については、令和6年度前期オープンに向け、実施設計及び工事等を実施しました。令和6年度については、地域候補 DMO に業務委託し、開業準備及び運営を行います。 ④ 地域候補 DMO に、イベントや実証実験のプロデュースを業務委託するとともに、市・枚方文化観光協会・地域候補 DMO の三者で観光施策連携のための協定を締結し、情報共有及び意見交換の会議を開催しました。 また、本市の観光関係データを調査分析し、より効果的な観光プロモーションを行うため、地域連携 DMO である大阪観光局に、府内市町村における本市の観光消費額等のデータを蓄積・可視化した DMP (データ・マネジメント・プラットフォーム) を活用した調査分析を委託するとともに、「枚方宿」をテーマにした動画を活用した観光プロモーションを行いました。 令和6年度についても、本市の観光施策を担う多様な関係団体・事業者がそれぞれの強みを生かし、枚方のポテンシャルを最大限に発揮できるよう、地域候補 DMO や大阪観光局等と連携して取り組みます。
--	--

重点的な取り組み：創業環境の充実

起業の創出・地域企業支援施設である地域活性化支援センターにおいて、令和6年4月のリニューアルオープンに向けて、テレワークや創業の準備段階から経営支援まで幅広い利用が可能となるコワーキングスペース・シェアオフィスの設置、子育て世代の創業・就労を支援する一時預かり保育サービスの試行実施など、多様な利用ニーズにも応えられる環境整備を図ります。

併せて、施設運営においても、地域活性化支援センターのビジョンとして「多くの方の知見を活用できるコミュニティ型の創業支援施設へ」を掲げ、市内の創業の機運を高め、創業者や事業者のコミュニティ形成に資するとともに、さらなる利用環境の充実に向けた事業を展開します。

また、市内関係機関で構成する「創業支援事業連絡会」や三者連携協定を締結した北大阪商工会議所・枚方信用金庫との連携強化を図り、「手厚いサポートのある関西一創業しやすい街枚方」の実現を目指して取り組みます。

実績	① 地域活性化支援センターのビジョンの実現に向け、公募型プロポーザル方式により総合管理・設計・工事監理・改修工事の施工・プロモーションなどを実施。令和6年4月1日にリニューアルオープン。 ② 創業支援事業連絡会を4回開催。 ③ 枚方市・北大阪商工会議所・枚方信用金庫の三者連携会議を月1回程度開
----	--

	催。
説 明	① インターネット環境の改善、テレワークや創業の準備段階から経営支援まで幅広い利用が可能となるコワーキングスペース・シェアオフィスの設置、子育て世代の創業・就労を支援する子ども預かりサービスの試行実施など、多様な利用に応えられる環境整備に取り組みました。 ② 創業支援に取り組む関係機関で構成する創業支援事業連絡会では、事業承継セミナーの開催や創業者情報の共有等をテーマに意見交換を行い、同連絡会を4回・担当者会議を2回開催し、各関係機関と連携強化を図りました。 ③ 中小企業支援・産業振興に特化した連携協定に基づき、北大阪商工会議所・枚方信用金庫と月1回程度三者連携会議を開催しました。小規模事業者等を対象としたエネルギー価格高騰対策緊急支援金や地域活性化支援センターのリニューアル等について、両者からの協力を得て周知や事業推進に取り組みました。

重点的な取り組み：地域経済の活性化に向けた市内事業者への支援

2025 年の大阪・関西万博を見据え、市内のものづくり企業の認知度向上と地域経済の活性化を図るため、企業と地域で一体的に実施していく「オープンファクトリー」の開催に向け、ひらかた地域産業クラスター研究会と協力して取り組みます。これにより、地域住民にとって街の魅力を再認識する契機とするとともに、地域に根差す企業としての意識の芽生えややりがいを得る機会とし、地域内外からの集客に繋がります。

また、早期にエネルギー価格の高騰により経済的に大きな影響を受けている市内の小規模事業者の負担軽減を図るための支援に取り組みます。

実 績	① オープンファクトリーイベント「不器用 FACTORY」の試行実施。 ＜参加者数：約 1200 人＞ ② エネルギー価格高騰対策緊急支援金の交付。＜交付件数：8,532 件＞
説 明	① 地域のものづくり企業の魅力を広く発信し、未来の担い手となる子どもたちと企業との新たな交流の場を創り出すことを目的に、8月19日、11月4日・5日、令和6年2月3日・10日・17日に KUZUHA MALL や各企業工場等で「不器用 FACTORY2023」を開催しました。参加企業をわかりやすく紹介するオリジナルトレーディングカードが制作され、参加者にプレゼントされました。令和6年度は本格実施に取り組みます。 ② エネルギー価格の高騰により大きな影響を受ける市内の小規模事業者等の事業継続を支援することを目的として、エネルギー価格高騰対策緊急支援金 10 万円を交付しました。

重点的な取り組み：「地域計画」の策定

これまでは「人・農地プラン」において、地域における農業の将来のあり方等を明確化してきましたが、令和5年4月の改正農業経営基盤強化促進法の施行により、「人・農地プラン」は「地域計画」と名称を変え同法に位置付けられました。この地域計画では、新たに「10 年後に目指

す地域の農地利用（目標地図）」や「農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標」「農用地の集積・集約化の取組」などを明確化する必要があります。

枚方市農業委員会が「10年後に目指すべき農地の効率的・総合的な姿を明確化する目標地図」の素案を作成し、農地の現況・将来についての意向を把握し、集約したうえで地域の状況に応じた話し合い活動を実施し、地域計画の策定に取り組みます。

実 績	① 今後の農業経営意向に関するアンケート調査及び集計の実施。 ② 座談会の実施。
説 明	① 市街化調整区域内の農地で北河内農業協同組合の支店管内を単位とし、蹉跎、川越、山田、牧野、招提、津田、菅原、氷室（杉、穂谷、尊延寺）の10地区を対象に、アンケート調査を実施し、集計分析を行いました。 ② 地域計画策定に向けた地域関係者（農業委員、農協、水利団体、関係農家など）の座談会を蹉跎地区で実施しました。

重点的な取り組み： 東部地域の活性化と里山保全

本市東部地域の良好な地域環境を維持しながら、地域資源を観光資源として位置付け、多くの人が地域を訪れ、その魅力を感じてもらえるよう、摂南大学農学部や地元区、ボランティア団体や事業者等と連携を図り、森林でのセラピーやヨガ、地域資源を生かしたタケノコ掘りなどの収穫体験、里山ウォーキングや栽培体験など、里山と農を生かした「癒しの郷 氷室・津田～美（be）Health プロジェクト～」に取り組みます。

また、東部地域の豊かな自然環境を守るため、森林ボランティアをはじめとする新たな担い手の発掘に取り組むとともに、里山保全活動団体や企業による環境貢献活動を支援するなど、引き続き、里山保全の取り組みを進めます。



実 績	① たけのこ掘り体験の実施。＜参加者数 48 人 応募者数 497 人＞ ② 森林ヨガの実施。＜参加者数 38 人＞ ③ 里山ウォーキングの実施。＜参加者数 19 人 応募者数 64 人＞ ④ 植物観察会の実施。＜参加者数 30 人＞ ⑤ 里山楽校（森林ボランティア育成事業）の実施。 ＜開催回数 8 回 修了者数 19 人＞ ⑥ 枚方市里山保全活動補助金の交付。＜交付団体数 6 団体＞ ⑦ 森林整備の実施。＜整備面積 2.5ha＞
------------	--

説 明	① 里山保全啓発を目的に穂谷山地取締役会と穂谷竹林整備委員会、地元農家と連携して、穂谷地内の竹林でたけのこ掘り体験を4月に実施しました。 ② NPO 団体紹介のヨガインストラクターを講師として、野外活動センターのステラホール前で5月、10月に森林ヨガを開催しました。 ③ 津田里山保全倶楽部による国見山や里山ボランティア活動に関する解説を聞きながら国見山配水池から野外活動センターを歩き、昼からは薪を使用したカレー作りを体験するウォーキングイベントを令和6年3月に開催しました。 ④ 里山の魅力、癒し等を実感してもらい、興味を持ち、ひいては里山の保全活動に携わるきっかけを作り出すことを目的として、大阪植物観察会と連携して4月、10月に開催しました。 ⑤ 市域における様々な里山の環境・現状を理解し、里山保全のための基礎的な知識や技術を修得することで市域の里山における保全活動に携わるきっかけを作り出すことを目的として、8回の連続講座を実施しました。令和5年度は修了生の内3人が里山保全団体へ新規加入しました。 ⑥ 里山保全活動を安定的かつ継続的に行う体制の確立を図り、里山の保全に資することを目的に里山保全団体6団体に枚方市里山保全活動補助金を交付しました。 ⑦ 森林整備方針に基づき、人々の暮らしに隣接する本市域の森林を健康な森として再生させるため、早急に対策が必要な拡大竹林の間伐(2.5ha)を実施しました。
-------------------	--

重点的な取り組み：農業の産業化促進・6次産業化の推進

市内で収穫された野菜などを活用し、摂南大学農学部や農業従事者、企業等と連携を図り、地域特性や消費者ニーズに対応した新たな商品化に向けた検討を行うとともに販路拡大に努めるなど、農業の産業化促進に取り組みます。併せて、新たな担い手となる新規就農者支援事業を継続することで、遊休農地の解消や農業振興を図るとともに、都市農業の強みを生かし、農業ふれあいツアーの充実や直売所等での農産物販売を通じて、新鮮な農産物を市民に供給する機会を提供していきます。また、消費者ニーズに対応した「6次産業化」を推進するために、「6次産業化基本方針」を策定します。



実 績	① 摂南大学農学部との連携で商品化した「すももちゃんサイダー」の増産。＜5,000本＞ ② 農業従事者や摂南大学農学部と連携して、すももの試験栽培を実施。 ③ 「枚方産さつまいもたい焼き」の増産。＜27,000袋＞ ④ 枚方市農山漁村発イノベーション推進戦略の策定。 ⑤ 新規就農者支援事業を実施し、令和6年4月から就農相談窓口の運用を開
-------------------	---

	始、研修機関との連携を開始。 ⑥ 農業ふれあいツアーの実施や、直売所等における農産物の販売。
説 明	① 摂南大学農学部が学生が収穫した杉地域のすももを使用したサイダーを5,000本増産しました（総本数22,000本）。 ② 農業従事者や摂南大学農学部と連携して、特産物の創出に向けて、すももの生育状況の確認を行いながら試験栽培を行いました。 ③ 地元企業や地元農家と連携して、約800kgの枚方産サツマイモを使用し、27,000袋を製造しました。また、たい焼きの餡に使用するサツマイモの収穫体験を9月に穂谷地区で実施し、72人の市民が参加しました。 ④ 農業者が国・府の支援を受けて、6次産業化の促進や多様な主体の参画による付加価値の創出などの事業を円滑に進めることができるよう、枚方市農山漁村発イノベーション推進戦略を策定しました。 ⑤ 新規就農者への支援を継続して実施しました。令和6年4月に、就農相談窓口の運用や、市の認定研修機関と連携したひらかた有機農産物アカデミーがスタートできるよう準備をしました。 ⑥ 収穫体験など、農業にふれる機会として農業ふれあいツアーを18回開催し、延べ1,633人の市民が参加しました。また、農業者団体が行う農畜産物の直売事業に助成し、9団体が直販を実施（延べ547日）することで、新鮮な農産物を市民に提供し、地産地消の促進を図りました。

重点的な取り組み： サンプラザ生涯学習課市民センターの③街区への移転

◆生涯学習交流センターの開館に向けた取り組み

サンプラザ3号館5階で運営しているサンプラザ生涯学習市民センターは、市駅周辺再整備に伴い、令和6年度前期を目途に③街区の3工区ビルに移転し、新たに生涯学習交流センターとして開館することから、図書館が併設されることも踏まえ、生涯学習交流センターの運営方法について検討するとともに、備品の調達など移転に向けた取り組みを着実に進めてまいります。

実 績	① 生涯学習交流センターの運営方法の検討。 ② 生涯学習交流センター指定管理者の選定を実施。 ③ 生涯学習交流センターの備品の選定・発注。
説 明	① サンプラザ生涯学習市民センターは第4日曜日が休館日であることや日曜日は夜間区分の利用ができないことから、生涯学習交流センターでは立地を踏まえ、第4月曜日を休館日とすることと、日曜日についても夜間区分の利用ができるよう、生涯学習市民センター条例の改正を行いました。 ② 生涯学習交流センターの管理運営を行う事業者を選定するため、指定管理者選定委員会に諮問を行い、同委員会から答申をいただき、令和6年3月議会において指定管理者の指定議決を得ました。令和6年度は、開館準備を進めるとともに、開館後はオープニングイベントをはじめとする指定管理者に

	よる事業を展開し、生涯学習交流センターを中心とした賑わいの形成を図ります。 ③ 生涯学習交流センターの施設に調和し、利用者に快適にご利用いただけるという観点から、備品の選定、発注作業を行いました。令和6年度は、サンプラザ生涯学習市民センターの閉館に伴う業務を実施します。
--	---

重点的な取り組み：文化芸術活動の発展とにぎわいの創出

◆総合文化芸術センターから「文化芸術のまち」を発信

令和3年8月に開館した本市の文化芸術の拠点施設である総合文化芸術センターにおいて、国内外の著名なアーティストを招聘した事業や、枚方T-S I T Eや京阪ホールディングスなどと共催事業を実施していくことで、市内外から多くの人々が来館していただける施設となるよう運営していくとともに、来館者が市駅周辺商業施設等に流入できる仕掛けを作り、市駅周辺の活性化に繋げてまいります。

◆子どもや若い世代の文化芸術に触れる機会の充実

本市の子どもや若い世代が優れた文化芸術を鑑賞し体験する機会の充実を図ることを目的に、教育委員会と連携を図りながら、全市立小学校高学年を対象とした音楽やダンスなどのアウトリーチ事業や連携協定を締結している大阪フィルハーモニー交響乐团による、全市立中学校1年生を対象としたフルオーケストラ鑑賞会を総合文化芸術センターで実施します。

実 績	① 枚方市文化芸術振興計画（計画期間：平成29年度～令和11年度）について、令和6年3月29日付けで枚方市文化芸術振興計画改訂版を策定。 ② 国内外の著名なアーティストを招聘した事業や地域の事業者と連携した事業を実施。 ③ 小学校アウトリーチ事業を実施。＜参加人数：3,053人＞ ④ 中学校オーケストラ鑑賞事業を実施。＜参加人数：2,747人＞
説 明	① 枚方市文化芸術振興計画について、文化芸術を取り巻く状況や国・府の動向、これまでの取り組みの総括と今後の課題を踏まえ、枚方市文化芸術振興審議会へ諮問・答申を経て、令和6年度以降の本市の文化芸術施策を総合的に推進するための指針として、枚方市文化芸術振興計画改訂版を策定しました。 ② 「文化芸術のまち」の発信を目的に、総合文化芸術センターにおいて、ウィーン少年合唱団や新国立劇場バレエ団等の国内外の著名なアーティストを招聘した事業を実施しました。また、枚方T-S I T Eや京阪ホールディングス、京阪沿線の文化ホール等と連携した事業を実施することにより、多くの人々に来館していただきました。 ③ 市立27小学校の5・6年生を対象に、枚方市アーティストバンクに登録している本市ゆかりの若手アーティストを小学校へ派遣し、音楽や舞踊（ダンス）公演の鑑賞・体験を通して、子どもたちに多様な気づきの機会を提供しました。 ④ 全19市立中学校の1年生を対象とした大阪フィルハーモニー交響乐团に

	よるフルオーケストラ鑑賞会を、枚方市総合文化芸術センター大ホールで実施しました。ホールで本格的な公演を体験することで、文化芸術の迫力や素晴らしさに直に触れる機会を設けました。
--	--

重点的な取り組み：文化財の保存と活用

◆特別史跡百済寺跡の整備と魅力発信

歴史的建造物である築地塀の復元工事を進め、工事の進捗に応じて見学会を開催します。市内大学に協力いただき、新たな技術を取り込んだAR映像などICT技術を活用した魅力発信に取り組めます。

◆文化財の大切さを伝える啓発事業

出土遺物に直接「見て、触れて、感じる」ことができる市民歴史講座の実施や、歴史ウォーク・各種刊行物の発行など普及啓発に取り組めます。地元店舗等と連携した枚方宿まちかど歴史展示や鋳物の歴史を体感できるくらわんか鋳物ツーリズムを市内の鋳物製造企業の協力を得て実施します。

◆埋蔵文化財調査の確実な履行と公開

文化財保護法に基づく発掘調査が、大型開発事業を含め多数見込まれるため、調査を確実に実施し、その成果を市民に公開するほか、調査記録を年報にまとめ、図書館や自治体に配布します。

実 績	① 築地塀の復元工事は令和6年3月に完了。 ② あわせて築地塀躯体工事の見学会を12回＜参加人数：117名＞、瓦葺き見学会とAR映像体験を8回＜参加人数：77名＞、枚方まつりでのAR映像体験＜参加人数：300名＞を開催。 ③ 市民歴史講座を2回＜参加人数：27名・25名＞、楠葉地区での歴史ウォーク＜参加人数：17名＞まちかど歴史展示＜参加人数：605名＞を開催。鋳物ツーリズムを、コマツ大阪工場＜参加人数：22名＞、寿ダイガスト工業＜参加人数：19名＞クボタ枚方製造所＜参加人数：15名＞の3か所で実施。 ④ 埋蔵文化財発掘調査として、試掘確認調査＜23件＞や土地区画整理事業に伴う範囲内容確認調査＜2件＞、遺跡分布調査＜2件＞を実施。
説 明	① 百済寺跡の再整備は、歴史的建造物である築地塀を創建当時と同じ従来工法と鉄骨を使用した現代工法とで工事を行いました。 ② 施工中には版築や瓦葺きの作業を実際に見ていただく見学会を開催しました。大阪工業大学の協力を得て作成したAR映像は、建物の再現精度を大幅に向上させるとともに建物内部についても立体表現を追加しました。令和6年度は、公園園路の舗装や植栽を行い事業を完了します。あわせて説明板の追加設置及び多言語化などを行い、特設ホームページやSNSなどで国内外への啓発普及に取り組めます。 ③ 身近な文化財の大切さを伝える啓発事業として市民歴史講座（淀川の治水を題材にした講演会、鍵屋別棟の国登録有形文化財（建造物）登録を記念し

	た鍵屋施設見学会)、楠葉地区の文化遺産を巡る歴史ウォーク、親子で参加し 鋳物製造文化の知見を広げる鋳物ツーリズムなどを実施し好評を得ました。 ④ 市内での大型開発事業や宅地開発などに伴う、文化財保護法に基づく発掘 調査を確実に実施し、その成果を発掘現場での説明会（1回）や発掘調査報 告会（1回）にて発表を行いました。
--	--

重点的な取り組み： スポーツ施策の充実

◆スポーツに親しめる機会の充実と生涯スポーツの推進

ひらかた万博の一環として、サインバスケットボールなど障害者スポーツを含めさまざまなスポーツの体験を行うことができるイベント及びラグビーW 杯の応援イベントなどを実施します。こうしたイベントの実施やスポーツの環境づくりを進め、あらゆる世代がスポーツに親しめる多様な機会の充実や、健康寿命の延伸を目指す生涯スポーツの推進の観点からも文化・観光・健康福祉の分野とも連携を深めます。

◆地元スポーツチームとの連携

夢と魅力あふれるまちづくりに向け、スポーツのすそ野を広げるため、枚方が本拠地のチーム「パナソニックパンサーズ」「F Cティアモ枚方」の知名度アップを図り、地域と交流できる機会を増やします。また、応援のぼり旗の活用を展開するとともに、情報発信の強化などで「みるスポーツ」を促進し、スポーツの実施率向上や賑わいの創出につなげます。



実 績	① 枚方市スポーツ推進計画（計画期間：平成 29 年度～令和 9 年度）について、令和 6 年 3 月 27 日付けで枚方市スポーツ推進計画改訂版を策定。 ② サインバスケットボール等の障害者スポーツ体験会と 3on3 体験会を組み合わせた「スポーツチャレンジフェスタ」を開催。＜参加人数：362 人＞ ③ 本市にゆかりのある選手等を応援するラグビーW 杯のパブリックビューイングを開催し、観るスポーツの楽しさを知るきっかけを創出。 ＜参加人数：300 人＞ ④ 地元スポーツチームと連携し、公式試合への市民無料招待や応援のぼり旗・応援用横断幕を作成し、知名度を高める取り組みを推進。
説 明	① 枚方市スポーツ推進計画について、スポーツを取り巻く状況や国・府の動向、令和 5 年 6 月に作成した中間評価報告書を踏まえ、枚方市スポーツ推進審議会へ諮問・答申を経て、令和 6 年度以降の本市のスポーツ施策を総合的に推進するための指針として、枚方市スポーツ推進計画改訂版を策定しました。 ② 11 月 25 日（土）にこども夢基金事業として、サインバスケットボールや車いすバスケットボール等の体験会とストリートバスケットボールの選手から直接教えてもらえる 3on3 体験会を組み合わせ、障害の有無に関わらず楽し

	めるイベント「スポーツチャレンジフェスタ 2023」を淀川河川公園枚方地区屋外バスケットコートで開催し、362 人の参加がありました。 ③ 9 月 10 日（日）に、本市にゆかりのある選手等を応援することで地域の一体感を醸成し、観るスポーツの楽しさを知るきっかけとなるイベント「RUGBY WORLD CUP 2023 パブリックビューイング」を開催し、300 人の参加がありました。 ④ 本市との連携協定に基づく取り組みとして、パナソニックパンサーズと FC ティアモ枚方による公式試合への市民無料招待を実施しました。 また、パナソニックパンサーズは市内幼稚園・保育所（園）、小学校、中学校の合計 56 校でバレーボール体験教室等を実施し、FC ティアモ枚方は公開練習や公開トレーニングマッチイベントを開催するなど、トップチームとの触れ合いを通じたスポーツを楽しむ機会を創出しました。 さらに、情報発信の強化として両チームを応援するのぼり旗の市内協力店舗への設置や各チームの応援用横断幕を作成し、ホームスタジアム（アリーナ）に掲出するなど、知名度を高める取り組みを推進しました。
--	---